

「北極圏旅行記 2017 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～7/26 スウェーデンの友人宅へ～

シェルフェテオーという少し大きな街を過ぎて内陸に入ると、スウェーデン中北部の農村地帯を通過する。実にのどかな風景で、北海道で最も美しい風景が次々と出現する感じだった。



これは白樺並木のある民家。特別な民家や教会ではなく、このあたりでは、こんなアプローチの家が普通で、私は何度も車を停めて、撮影させてもらった。



この日の目的地、バストウトレスクに着いた。スウェーデン語で「サウナの湖」という意味である。私は国内でも海外でも、その街に鉄道が走っていれば、まず駅に行かないと落ち着かない。今回も、まずは駅を見に行った。西部劇にでも出てきそうな小さな駅だが、ストックホルムからの急行列車や、ノルウェー行きの夜行寝台列車など、すべての旅客列車が停車する優等駅である。日本とちがって「入場券」というものはな

く、駅舎やホームは自由に入れる。ちょうど列車がさしかかった。



これは旅客列車ではなく、貨物列車だった。スウェーデンの貨物列車は長大な編成のものが多いが、これはたったの4両編成。ゆっくり通過していった。機関車は日本のディーゼル機関車に似ている。

バストウトレスクは、スウェーデンでは小さな街、というよりも村である。人口は300人ちょっと。友人夫妻は、もともと北のポルユスという、北極圏の街にある駅舎に住んでいたのだが、最近ここに引っ越してきたのだ。日本人の感覚では、高級別荘地のようすばらしい環境の住宅地だ。



教えてもらっていた住所(通りの名称+番地)をたよりに、ついに友人の家を見つけた。海外の、しかも初めて来る街で、住所だけで迷わず行きつけて、ちょっと安心した。赤い屋根と壁、白い縁取りの窓やドア。典型的なスウェーデンの民家の造りの家だ。いつ到着するかわからない私たちを、友人夫妻は、すでに庭で食事の準備をして出迎えてくれた。数年ぶりの嬉しい再会となった。